

平成 29 年 司法試験合格体験報告会



日時：平成 29 年 9 月 22 日（金）14:00～17:00

場所：豊中総合学館 4 階 401 講義室

大阪大学大学院高等司法研究科

司法試験合格体験報告

平成 29 年 9 月 22 日 報告者：大前貴子

【I 知識の定着】

1. 「司法試験」の勉強

(1) 1 年目の反省

- ・講義の予習・復習に時間をかけすぎた結果、司法試験の勉強がおろそかに
- ・ゼミで司法試験の過去問を解いてはいたが、十分に有効活用できていなかった

(2) 2 年目の取り組み

- ・ロースクールの講義ノートは論文試験に役立つ知識の宝庫
ただし、判例を含めて最低限の基礎知識は網羅的に把握していることが前提
「忘れやすそう」だと思う知識は、ノートにまとめて一元化しておく
- ・知識に自信がなくても、答案は作成すべき
→練習段階の答案は「ダメな部分」を見つけ出すためにも使うことができる
- ・ゼミで答案作成後、復習で自分なりの完全答案を作成してみるのもあり
→メインでない論点も確認でき、問題と関連付けて幅広い基礎知識の定着が可能に

2. 短答対策

(1) 1 年目の反省

修了後は論文の勉強に掛かり切り→授業での小テストを最後に短答の勉強はせず

司法試験での短答の配点は確かに低い…しかし！

短答の勉強がおろそかに→「短答大丈夫かな…」という不安感→論文の勉強にも支障が…

(2) 2 年目の取り組み

- ・短答の知識が論文に役立つことも多いので、それぞれを完全に分離させるのは勿体ない
→論文・短答の基礎知識を合わせてノートにまとめるようにした
- ・短答の問題を何度も解く余裕がない
→間違えた問題、曖昧な問題に関する知識も同じノートにまとめ、問題を何度も解きなおすのではなく、このノートを何度も見直した
ただし、短答試験の感覚を忘れないよう定期的に試験形式の短答問題は解いていた

3. 苦手科目の対策

(1) 1 年目の反省

会社法が苦手、理解はできても長期記憶ができず、どんな工夫をしてもだめ

「そんな科目があっても良い。直前期に知識を詰め込めば良い」とのアドバイス

実践を試みるも、そもそも他の科目が中途半端なので会社法の知識を詰め込む余裕がない

焦るばかりで頭に入らず、不安で眠れない→試験会場でフラフラ

(2) 2 年目の取り組み

- ・直前期に詰め込む作戦は変えず（あまりオススメはできないが）
ただし、テキストは百選とロースクールの講義レジュメ・メモだけに絞り、不安感を消すために会社

法に触れない日を作らないようにした

・「仮に本番で転んでも大丈夫！」と思えるほど他の科目に自信をつけることができれば…

【Ⅱ 知識の応用】

司法試験で問われるのは単純な基礎知識だけではない。応用力が試される。

しかし、応用の方法は無限にある…事前準備ができない！

→普段の勉強から些細な疑問でも自分に問いかけ真剣に悩んでみる

Ex.判例にないパターンを考える（≡判例の射程を考える）、遊びながら問題を作ってみる

【Ⅲ 答案作成】

1. 手書き答案

(1) 1年目の反省

ゼミの答案もPCで作成することが多かった

「試験時間内」に書ける文字数は把握できても、「試験中」に書ける文字数の限界を把握できていなかった

→試験本番での時間不足の原因に

(2) 2年目の取り組み

・「時間を図って」手書き答案を書く→私の場合、答案構成にかけられる時間は20分

・問題を解く感覚を忘れないよう、答案を書く作業は試験直前期にも続けていた

2. 答案構成

(1) 1年目の反省

答案構成が不十分だったため、試験本番で書きたいことが上手くまとめられていなかった

→頭の中できちんと構成しても、構成用紙に殴り書き程度では答案を書き始めてから困る

(2) 2年目の取り組み

問題を読んで答案構成だけを作る、という練習も有効

→人それぞれ答案構成の方法に好みはあるだろうが、構成が試験の勝負だと思うので、短時間で漏れなく的確な構成ができるよう、練習はするべき

3. 答案を「読んでもらう」「読む」

・答案の悪い点は自分自身では気付きにくいので、多くの友人に読んでもらうべき

・良い点を吸収できるのみならず、読み手に伝わりにくい書き方等、好ましくない点を学び自分の答案に反映させることもできるので、友人の答案を多く読むべき

【Ⅳ 試験会場での落とし穴】

1. 空調対策は必須

2. アナログの腕時計は止まっても気付きにくい

3. 暖かい飲み物が必要な場合は持参するのが良い

【Ⅴ おわりに】

私が皆さんに一番伝えたいことは、ロースクールの授業と司法試験の勉強を両立させることがとにかく

大切だ、ということです。

自分に合った勉強スタイルを見つけ、司法試験に向けてそれぞれのペースで進んでいってください。皆さんが司法試験に無事合格できることを、心から願っています。

以上

平成 29 年司法試験報告会レジュメ

南 力斗

神戸大学法学部

大阪大学高等司法研究科（既修）

二回目受験

1、はじめに

2、ゼミの話

3、教材の話

4、授業の話

5、直前期の対策、短答式試験の重要性

6、さいごに

私の勉強法

平成 28 年度修了 未修
大栢 美緒

1 自己紹介

2014 年 3 月 大阪大学法学部 卒業

2014 年 4 月 大阪大学高等司法研究科（未修）入学

2017 年 3 月 大阪大学高等司法研究科 卒業

2017 年 5 月 司法試験 受験（選択科目：経済法）

2 1 年次・2 年次

- ・授業の予復習をしっかりと。
- ・短答の勉強は授業の小テスト対策のみ。

3 3 年次

- ・授業の比重が下がる。
- ・司法試験過去問ゼミを組む。
 - └2 週間に 1 回、2 科目ずつ（選択科目以外）。
それぞれ答案を書いて、ゼミで検討し合う。
- ・短答ゼミ（？）を組む。
- ・伊藤塾の答練を受ける（9 月～）。
 - └大学で友人と一緒に時間を図って答案を書く。
- ・経済法ゼミ

4 直前期

- ・TKC 模試を受ける（3 月）。
 - ↓
- ・短答の勉強を見直す。
 - └肢別本からパーフェクトへ移行。
逐条テキストに立ち返り、間違えたところは印をつける。
※ 刑法は基本書。
- ・自分の授業ノートを見直す。

5 まとめ

- ・1 年生、2 年生へ
- ・3 年生へ

6 おまけ（使用教材）

※ 自分の授業ノートがメインだったので、その補助として利用していました。

憲法	芦部 「憲法上の権利」の作法
行政法	基本行政法
民法	佐久間 1・2 担保物権法（松井） 債権総論（田中） 債権各論 1・2（潮見） 百選
会社法	リークエ 会社法事例演習教材
民事訴訟法	新民事訴訟法講義 百選 えんしゅう本
刑法	基本刑法 1・2 刑法事例演習教材
刑事訴訟法	リークエ 百選
経済法	条文から学ぶ 論点解析

合格体験報告会

平成28年度修了生 未修

浅川 敬太

第1 自己紹介

2009 大阪大学医学部医学科 卒業

2009 - 2012 諏訪中央病院（長野県）外科

2012 - 2014 済生会千里病院 千里救命救急センター

2014 - 2017 大阪大学大学院高等司法研究科（未修コース）

2017.9月 司法試験合格（選択科目：労働法）

短答式：126点（憲法：30点/50、民法61点/75、刑法35点/50 1733位）

第2 日々の生活

平日は、朝は、始発で大学へ。授業のない時間は、原則自習室で予習復習。夕方18時頃になれば、帰宅し、その後は家族との時間を。入眠は、ほぼ毎日、10時頃。

（当直がある日は、大学から職場へ直接行き、翌日、そのまま大学へ。）

休日は、朝4時（or3時）頃に大学へ。昼12時頃まで予習復習をして、帰宅。その後は、子どもと遊んだり、家族との時間を過ごす。2週に1回は完全勉強OFFの日も。

リズムをつけて規則正しい生活をすることは、長丁場の試験生活の上ではとても大切です。

第3 勉強の基本方針

私は、いわゆる純粋未修で、また元が理系でもあり、司法試験の勉強については、当初は大変苦労しました。振り返って、基本方針は、

① ロースクールの授業中心の勉強をすること

② 自分のまとめノートを「自作」すること（今日は供覧したいと思います。参考になれば幸いです。）

③ 自分の勉強方針を常に批判的に吟味すること、
でした。

まず、①については、基礎力は物量の世界です。そして、否が応でも毎日授業があるので、これを最大限に活かすのが効率的です。毎日の積み重ねが3年後に大きく現れると信じて、日々に食らいつきました。

これにより、各種基本書を通読でき、結果としてアウトプットの基礎体力となりました。また、直前の短答対策にも生きました。

次に、②については、自作にこだわりました。

なぜなら、論文試験では、「自分が理解していることしか表現できない」からです。これにより、司法試験本番で、地に足のついた答案を作成することができました。

そして、③については、同級生・教員・合格者の意見を積極的に聞くことが大切です。ローという組織体には在籍する利点です。今日のような合格体験報告会には過去2回とも出席し、大変有意義な情報を得ました。

（ですので、今回の資料は、感謝の気持ちを込めて、しっかりと作りました）

第4 具体的な勉強方法

1 基本書

1年次（未修コース）では、授業での予習指示に沿い、指定の基本書は（わかがわからないまま）通読しました。前述の通り、これが基礎体力となりました。3年間で部分的には繰り返して読むところはあったものの、基本的には通読は1度きりでした（何度も通読する時間はないと思います）。

使用した（オススメの）基本書：

- 憲法 「憲法Ⅰ 基本権」 渡辺康行・穴戸常寿・松本和彦・工藤達朗
「憲法」 芦部信喜
- 行政法 「行政法読本」 芝池義一
→ もっとも、2年次以降は、野呂先生レジュメを基本書として使用
- 民法 「債権総論」 中田裕康
「基本講義債権各論Ⅰ・Ⅱ」 潮見佳男
「民法の基礎 1 総則」 佐久間毅
「講義 物権・担保物権法」 安永正昭
「アルマ 家族法」 松川正毅
- 会社法 「LQ 会社法」
- 民事訴訟法 「アルマ 民事訴訟法」 山本弘・長谷部由起子・松下淳一
- 刑法 「基本刑法Ⅰ 総論」 大塚裕史・十河太郎・塩谷毅・豊田兼彦
「基本刑法Ⅱ 各論」 大塚裕史・十河太郎・塩谷毅・豊田兼彦
- 刑事訴訟法 「LQ 刑事訴訟法」 宇藤崇・松田岳士・堀江慎司
- 労働法 「労働法」 菅野和夫 （参照のみ・通読はせず）

2 期末テスト

2年次までは、期末テストを pass することだけに集中していました。振り返ってみて、概ね全ての期末テストの延長に司法試験がある印象ではあります。

入学当初（初めての期末試験前）は、法律答案の書き方がさっぱり分からず、「司法試験・予備試験 スタンダード100」（早稲田経営出版）や「えんしゅう本」（辰巳法律研究所）、ローの先輩の優秀答案、などの答案例をひたすらみて勉強していました。

合格者答案、模範答案を見て模倣するということは、この時のみならず、司法試験本番まで継続していたように思います。

3 短答

短答の試験対策を開始したのは、3年次になってからでした。肢別本より過去問を理解しながらじっくりする方が効率的です。私がしたのは、憲・民・刑のみですが、余裕のある人は、2年次までに行政・商・民訴・刑訴の短答過去問集を勉強のルーチンに入れたならば、3年次になってからするインプットを大きく省略して、アウトプット（演習）に回せる時間が多くでき、理想でしょう。

4 ゼミ（司法試験過去問の答案練習会）

3年次の頭から未修のメンバー4人で答案練習会を開始しました。司法試験の過去問を事前にとき答案を作成し（手書きが大事）共有し、当日に集合して3時間で意見を言い合うという形式でした。我々は未修者のみでしたが、既習未修をまぜてやった方がよかったかな？と今では思います。それでも、自慢のメンバーでした。

だらだら集まるのではなく、時間を区切って、濃密な時間を過ごすために各人工夫する必要があります。

結局、H28～H22 までしかやりきれませんでした。H23 までしっかりやれば十分だったとも思います。

5 予備校の答練・模試

大手予備校の答練を、1クール受講しました。2時間という制限時間の中で答案を作成しきる能力、初見の問題の答案を作成する能力を涵養するにはうってつけでした。採点官の質はムラがありますが、上手に使える、よい成果を得られるものではありません。

また、模試は、辰巳法律研究所の模試を受験しました。結果は、6000人換算で3500位と惨憺たるものでした。もっとも、自身の感触と実際の順位の乖離が激しかったので、その後は、「採点官のレベルも、問題のレベルも本番とは全く違うもんやろ！」と割り切って、残りの時期を過ごしました。

この時の精神状態の持っていく方は、結構厳しいものでしたが、結果をみれば、自分を信じてよかったのかなと思います。

6 まとめノート

供覧しましたように、私の勉強の中心は「まとめノート作り」です。3年間で何度も何度もブラッシュアップして、自分の理解をまとめていきました。また、その作業をすることで理解も深化していきました。

実は、これは自身の大学受験時の勉強法のままなのですが、人の勉強方法はいくつになっても変わらないのだとも思われました。

要は、正しい勉強法は千差万別であって、そこに優劣はないけれど、とはいえ、その中で自分にフィットした勉強法は、必ず見つけなければならないということです。

私は、司法試験の1か月前からは、この「まとめノート」以外の書物は開きませんでした。

「自分の理解していることでしか表現できない」と最後まで信じていました。

7 直前期の勉強方法（3年次生に向けて）

私は、3年次の9月頃からは、前述のまとめノートの中で暗記すべき所を暗記しつつ、演習（アウトプット）を勉強の中心としていきました。

1日1通は、実際に時間を図って起案し、その他の時間は、答案構成のみとしました。演習の題材は、優秀答案（or 模範答案）があるものを優先的に選び、起案直後に、すぐに優秀答案（模範答案）と起案した答案を対照しました。もっとも、優秀答案（or 模範答案）を鵜呑みにするのではなく、批判的に吟味し、「本番でこの問題でたら、書けるのはここまでやな」とか「この模範答案は、点数伸びにくいやろな」とか「ここは、法的三段論法、がつつり書かなアカンな～」とか、常に本番を意識していたように思います。

具体的に使用した題材：

- 司法試験過去問（H28～H23）
- 予備校の答練のデータ（各教科）
- 『事例研究行政法』 曾和俊文・野呂充・北村和生
- 『Law Practice 民法Ⅰ・Ⅱ』 千葉恵美子・潮見佳男・片山直也
- 民法応用1・2で使用した問題
- 『事例で考える会社法』 伊藤靖史・伊藤雄司・大杉謙一・田中亘・松井秀征
- 『Law Practice 民事訴訟法』 山本和彦・安西明子・杉山悦子・畑宏樹・山田文
- 『刑法事例演習教材』 井田良・佐伯仁志・橋爪隆・安田拓人
- 『事例研究 刑事法Ⅰ 刑法』 井田良・田口守一・植村立郎・河村博
- 『事例研究 刑事法Ⅱ 刑事訴訟法』 井田良・田口守一・植村立郎・河村博
- 『労働法演習ノート』 大内伸哉

上記の勉強を、およそ3月末までは、ひたすら繰り返していたように思います。

そして、3月末～直前までは、また「まとめノート」の見直しに戻りました。記憶があやふやなところ、理解に不安があるところを見直し、ただ、新しい知識はもう足さないように気をつけました。

この段階で、不安にかられて新たな知識を変に入れると、本番で論文が浮ついたものになる危険があるので、私はオススメしません。

第5 最後に

司法試験の合格を得るためにする正しい努力の積み重ね方は、一つではありません。しかし、漫然と勉強することは避けるべきだと思います。

「自分の今の勉強は、六法のみを片手に2時間で論文を仕上げるという苛烈な本番を想定して、これに耐えられるだろうか」

これを自問自答しながら、日々の勉強を充実させてください。

合格のためには、相応の努力をしなければならないでしょう。歯を食いしばって、基礎体力（基礎知識）を蓄えなければ、話になりません。厳しい現実ですが、これは真です。

もっとも、各個人に課せられる相応の努力をすれば、必ず、合格することができる。これも真です。

司法試験は、過酷で負担の大きい試験であることは間違いないです。

しかし、努力が報われるという点においては、理不尽なものではないと思います。

自分の大切な時間を注ぎ込んで、チャレンジするに値するものであると思います。

後輩の皆様方、最後まで諦めず、ぜひ最高の結果を勝ち取ってください。応援しております。

以上

しっかりやれば大丈夫

大橋 翔（既修） 受験回数：3回

私がこの寄稿で皆さんにお伝えしたいことは、このまましっかり頑張っていれば大丈夫だ、ということです。

今回、私は3回目の受験で合格しています。1回目は短答落ち、2回目は短答こそ辛うじて突破したものの惨敗と言った結果でした。

原因は明らかで、誰しも認める勉強不足です。おそらく、現在大阪大学のローで学んでる皆さんは、私よりも法律の正確な知識を持ち、なおかつ勉強している方のほうが多数派だと思います。

つまり、根本的に知識が足りないと言うことは、大阪大学のローを修了する場合には余り考えられないのです。もし不合格になるとすれば、多くの場合、それは知識を上手く活かしきれていないだけだと思います。

出題趣旨や合格者の再現解答を読めば、要求されている内容自体はそこまで難しいことではないと感じると思います。

しかし、実際に問題を解くとなると、なかなか上手くいかないものです。言われれば分かるから見てすぐ書けるまで高めることが目標となります。

そのやり方は人それぞれだと思いますが、自分なりに型を身につけ、呼吸のように扱えるようにしましょう。再現答案等を参考にするのもいいと思います。

知識に不足があると言うわけではないと思います。頑張ってください。

自分の課題を見つけ取り組む

橋本 正成（未修） 受験回数：3回

私は、法学部卒業後に未修コースで入学し、3度目の受験で合格しました。

過去2度の受験で短答式は特に問題なかったのですが、総合順位は3000番台でした。この結果や再現答案などを踏まえ、自分の主たる課題は、知識の不足というよりも、制限時間内に答案を書くことであると考え、この課題を克服するための勉強を10月から始めました。

勉強の主たる内容は、過去問の検討です。新制度の過去問すべてを3～5回は繰り返し書いて、知識・構成・時間配分などを検討しました。ある程度繰り返すと問題を覚えてくるので、制限時間は、だんだん短く設定していました。科目によっては、他の人に答案添削をお願いしました。また、初見の問題や過去問で出題されていない分野の問題に対応するため、予備校の答練・模試を利用しました。

今年度の商法の試験では出来の悪さに思わず半泣きの状態になりました。奮起して残りの試験に全力を出せたのは、あれだけ書いたのだからという思いからでした。自分に必要な勉強を見定め、着実に実行すれば合格できます。自分を信じて頑張ってください。

周りの人に支えられて

宮本 尚紀（未修） 受験回数：3回

私はどうしても怠け癖があり欠席も重なり2年生にやっとの思いで進級しました。その後も自分なりに勉強してはいるものの絶対量が足りずなんとか留年せず修了できただけで精一杯という感じでした。1回目の受験はまったく合格ラインに届かない結果となりました。その後ロースクールで聴講させてもらいながら予備校なども利用し、また他の受験生とゼミを組ませてもらって2回目に挑みましたが合格ラインから500番くらい下の成績となり悔しかったです。周りで共に勉強していた人たちもほぼ2回目で合格していなくなってしまって辛い思いをしましたが、下の学年でゼミを組んでくれる人もいて、2回目で「F」評価をもらった2科目を中心に隙間を埋めるような勉強を意識し、まとめノートに色々書き込んで何度も読み返すことをして今年合格することができました。明後日の方向を向いた答案を書くことがあったので、やはり出題趣旨や採点実感を熟読して何が聞かれているかを真摯に受け止めることが大切だと思いました。

司法試験受験体験

桂 典之（既修） 受験回数：2回

今回、様々な方の助力もあって司法試験に合格することができました。以下では、私が特に有効だったと思う事項を記します。

筆記速度の向上は強く薦めます。私はB5のルーズリーフに1日1枚、試験本番で用いる万年筆で文字を書きました。筆記速度は誰でも確実に向上します。焦ることなくじっくり答案構成ができるようになるのでお勧めです。

ゼミの組み方に悩むこともあると思います。私の場合、ゼミは3月から組みました。それまでは基礎事項の確認、情報の一元化、典型問題の演習といった一人で出来る勉強をしていました。3月に友人に誘われ、1科目を1週間で復習し週末に集まって当該科目の答練を行うようにしました。友人と会えることを楽しみにゼミに臨み、完璧ではなく最低ラインを意識して緩く行ったのが効果的だったように思います。幸いゼミを組んだメンバーは全員合格できました。

総じてやることを限定し、基礎的事項を意識して刷り込むように勉強したことがよかったように思います。そして互いに支え合う友人を持つ。私の個人的意見ですが挑戦の一助になれば幸いです。

司法試験合格体験

田澤 知弥（既修） 受験回数：1回

自分は今、司法修習の申込みに必要な手続きを終えた状態でこの文章を書いています。いまだに司法試験に合格したことの実感が100パーセント湧いているというわけではありません。これは、自分の法科大学院での成績が悪く（下から数えた方が早かったです）、さらに本試験を解き終わったあとの感触もよくなかったという背景から、合格発表までの間、ほぼ落ちただろうという気持ちで過ごしたからだと思います。ただ、そんな自分が合格することができた大きな理由は、よい仲間と巡り合えたからです。合格のためには自分の弱点を克服することが不可欠ですが、自分の弱点を正面から見つめることはかなり苦痛であり、無意識に目をそむけたくなることもありました。そのようなとき、仲間のおかげで自分が無意識に目をそむけていた弱点に気づくことができました。また、仲間と談笑する中で受験勉強の苦痛もかなり緩和されたと思います。今後司法試験を受験される皆様が、皆様それぞれのよい仲間とともに最後まであきらめずに研鑽を積み、本試験に合格されることを願っています。

ロースクール生活と司法試験

金 星玉（既修） 受験回数：1回

私の学力はロースクールで過ごした2年間で飛躍的に向上しました。その要因は、下記のとおりです。

第一に、予備校のテキストのみならず、基本書を用いることで、より深い理解に到達したことです。これによって、司法試験を解くにあたっても、設問の問題意識を、的確に把握できるようになり、全く見当はずれ的答案を書くことが、ほとんどなくなりました。そして、ロースクールでの授業は自身の疑問点を解消し、基本書に書かれている内容をより深く理解する上で、役に立ちました。

第二に、自主ゼミを組んで、お互いの答案の、充実している点、不足している点を、指摘しあったことです。これによって、答案の質が飛躍的に向上しました。答案検討を行う際には、司法試験の出題趣旨、採点実感を重視しました。また、出題趣旨、採点実感に沿った完全解の答案を書けるように努力しました。合格点を目指すだけの勉強では、司法試験に合格できないと感じたためです。

第三に、周りの環境に恵まれ、勉強以外のことでストレスを感じる事がほとんどなかったことです。両親や友人、ロースクールの同級生、先生方には、本当によく助けていただいたと、心より感謝しています。

司法試験合格体験記

今泉 徹（既修） 受験回数：1回

1. 司法試験を受験するにあたって私が個人的に重要視していたことは、①分析、②計画、③当日のコンディションでした。
2. 試験問題の分析はもちろんですが自分の能力も分析すべきだと思います。試験問題を分析し、自分に足りない部分を補っていくことが試験勉強です。そして、自分の能力の分析とは、自分の成績と勉強方法を研究していかなければなりません。勉強方法は、他人の経験を鵜呑みにしてはならず、自分に合ったやり方を知り、必要な時間と残り時間を把握したうえで決定すべきです。
3. 法科大学院入学後、司法試験まで2・3年しかありません。自分に残された時間は想像以上に短く、費用対効果をいつも考えていきましょう。このとき、長期と短期の計画をできる限り具体的に立てることが重要です。立てた計画をこなしていくというスタンスも悪くないと思います。
4. 最後の最後は、ベストパフォーマンスを発揮できるかどうかにかかっていると思います。よく寝て、よく食べて、自分の体調を整えましょう。また、直前の模試を利用して、当日の行動を予習するといった周到な準備も大切です。

ネガティブシンキング

白須 黛（既修） 受験回数：1回

紙幅の関係で、一つだけお伝えします。この内容が合わない人もあると思いますので、参考にした人だけ、参考にしてください。

それは「司法試験に落ちた場合を具体的にイメージする」ということです。私の場合を少し書きます。私はLS入学時まで順調に生きてきまして、現役で進学もしてきました。もともと大学在学中に、友人、高校から交際していた女性、そして家族や親戚には弁護士志望と伝えていました。今までの順調なればこそ、周りの期待もあったと思います。では私が試験に落ちたとしたらどうか。周りの友人はもう社会人として働き後輩もいる。恋人ももう働いていて、私との将来のことも考えている。その中で私だけが前に進めずにいる。親の世話にもならなければならない。将来も不確定でどうなるかわからない。自分だけ苦しむならいいが、私の可否を自身のことのように気にしている人達を悲しませる。

不合格なら、私の場合こうなります。楽な道でも確定した道でもありません。私はこのことを真剣に考え、自分がそれでもなお、司法試験を目指すという覚悟を決めました。試験前は度々イメージし、友人ともこのような話をし、自身をたきつけました。一生懸命勉強するための一方法ですので、不愉快に思われない方であれば、参考にしてみてください。

自分が理解していることしか表現できない

浅川 敬太（未修） 受験回数：1回

私は、いわゆる純粋未修で、元が理系でもあり、司法試験の勉強については、当初は大変苦勞しました。

振り返って、基本方針は、①ロースクールの授業中心の勉強をすること、②自分のまとめノートを「自作」すること、③自分の勉強方針を常に批判的に吟味すること、でした。

まず①については、基礎力は物量の世界であって、否が応でも毎日授業があるので、これを最大限に活かすのが効率的です。毎日の積み重ねが3年後に大きく現れると信じて、日々に食らいつきました。これにより、各種基本書を通読でき、結果としてアウトプットの基礎体力となりました。また、短答にも生きました。

次に、②については、自作にこだわりました。なぜなら、論文試験では、「自分が理解していることしか表現できない」からです。これにより、司法試験本番で、地に足のついた答案を作成することができました。

そして、③については、同級生・教員・合格者の意見を積極的に聞くことが大切です。ローに在籍する利点と感じます。

後輩のみなさまの勉強方法の一助になれば幸いです。ご武運を祈念しております。